

# 朝の館内放送

令和元年10月7日

みなさん、おはようございます。

市長の中村健です。

先日、市長としての育児休暇を取得する旨の記者会見を行い、それに合わせてイクボス宣言も行いました。

西尾市では、これまでに育児休暇を取得した男性職員の数が累計で7人と、極めて少ない状況にあります。

平成30年に行った「男女共同参画に関する意識調査」の結果からは、育児休暇を取得することができなかった理由として、6割以上の方が「職場に休める雰囲気がないから」ということを挙げています。

また、厚生労働省が発表した「平成30年度雇用均等基本調査」によれば、配偶者が出産した男性のうち、育児休暇を開始した人の割合は6%強でした。

民間企業等が実施している全国的な調査結果によると、育児休暇制度を利用できなかった理由として、職場の空気、周りに迷惑がかかる、自分にしかできない仕事がある、という内容を挙げる人が多いようです。

組織における「空気」・「雰囲気」、周囲の人との協調関係を重視すること自体は、日本人の良いところであると思います。

しかし、それに左右されるがあまり、自分自身の人生を損なってしまっただけでは意味がありませんし、これまでの取り組みに対し、西尾市としても反省すべき点があったのだと考えています。

近年、「働き方改革」という表現がよく使われますが、私自身は「ワークライフバランス」という表現の方が好きですし、このフレーズに事の本質が端的に示されています。

それぞれの家庭で、望ましいワークライフバランスの形は異なります。

育児に限ったことではありませんが、育児のことでいえば、育児休業を取得することが目的ではなく、家庭における育児のあり方を考える中で、その手段の一つとして育児休業の取得という選択肢があるはずであり、個々の職場としては、それぞれの家庭で最善と考える選択肢を取りやすい風土をつくっていくことが望まれます。

お互い様の精神で、助け合い、支え合うのが人生です。

助けること・助けてもらうことを躊躇して何もしないよりも、時には助け、時には助けられ、組織の存在や人のつながりに感謝しながら人生を送る方が、より人間らしく充実したものだと思いますか。

職員一人ひとりのワークライフバランスを実現していけるよう、役職、年齢、性別等に関係なく、みなさんの善意でのご協力をお願いします。